

# 今月のコラム

新しい生活様式

医師 多田 明



緊急事態宣言が解除になった五月十五日、原稿を書いています。一か月程度経過して、ようやくトンネルの向こうに光が見えてきたように思います。私は、この四月から森先生の後任に「みらいのさと太陽」に常勤医師として就職いたしました。介護保険制度での施設への勤務は全く経験がありませんでしたので、よろしくご指導お願いいたします。

今年二月からコロナウイルス感染症(以下 COVID-19)が日本のみならず世界全体に急速に広がり、多くの感染者と死者を出してしまいました。五月中旬の時点で日本への評価は比較的良好で、米外交渉は十四日、日本の COVID-19 対策はことごとく見当違いに見えるが、結果的には世界で最も死亡率を低く抑えた国の一つであり「(対応は)奇妙にもうまくいっているようだ」と伝えています。

これからの課題は、緊急事態宣言解除後の新しい生活様式ですが、介護老人保健施設そのものの存在が不要不急ではなくて、世の中で必要とされている職場なのです。自信をもって対処対応していけると思っています。高齢者、障害者など特に支援が必要な方々の住居や支援に関するすべての関係者の事業継続を政府が要請している訳ですから、施設内感染を徹底的に防止するために次の事項を周知徹底するように要望しています。

- 従事者などが感染源にならないよう、三つの蜜が生じる場を徹底して避ける。
- 症状がなくても患者や利用者や接する際にはマスクを着用する。
- 手洗い、手指消毒の徹底。
- パソコンやエレベーターのボタンなど複数の従業員が共有するものは定期的に消毒する。
- 食堂や詰め所でマスクを外して飲食する場合、他の従業員と一定の距離を保つ。
- 日々の体調を把握して少しでも調子が悪ければ自宅待機する。これらの感染対策は、当施設では日常的に行われている対策であり、今後も気を引き締めて継続していくことになると思います。その結果として、日本のみならず世界中の COVID-19 が終息することを願っています。

心の種を育てていこう

通所リハビリテーション科

一柳 美宝



私の子供達の通う保育園では、夏野菜の種を園の畑に種まきし、自分たちで育てていきます。地元の農家の方に教えてもらいながら、自分達で土を触り、小さい子達と順番に水まきし、大雨から、自分の傘をさしたりして守り、収穫の季節になるまで、園のみんなが協力して育てます。娘たちが、「トマトが真っ赤になってほしい」、「シソの葉をてんぷらにして食べたい」とニコニコお話ししてくれるのを聞くと、可愛いと同時に、ありがたいなと思います。

デイケアのご利用者様の方々でも、たくさんの方が、畑に出ておられ、移りゆく季節の中、どんな天気であっても畑を耕し、種を植え、水やりを欠かさずに行っておられます。その中で、草むしりをして腰を痛めたり、膝を痛めたりしても、それでも欠かさず、草をむしったりし、大事な苗を大きく育てておられます。その姿が、苗を守る子供達の姿とよく重なります。今年はいよいよ収穫できたよと、笑顔でおっしゃる姿が本当にまぶしいです。種植えと同じで、今は、コロナなどで辛くても、この先にはっと明るくなるような事があると信じて、一歩ずつ頑張っていけます。簡単ではない道を進むほうが、人生にとっては豊かなものになり、自分の実りになり良いのかもしれないね。

終わりに私が大切にしている言葉を皆様にご紹介します。

「汝の現今に播く種は、やがて汝の収むべき未来となって現われるべし」夏目漱石の日記より

(いま現在に積み重ねている努力は、すぐさま結果が出なくても、将来きつと実を結ぶ。来るべき明日のためにきちんと種を播いていこう)

皆さんと一緒に日々を明るく、進んでいきます！

# デイケア便り 5月号

## 集団体操



## 手作りマスク

